

飼料イネ品種 Taporuri の 2 回刈り乾物多収栽培法

飼料イネでは、低コスト生産を実現するために、高乾物収量が求められています。そこで、台湾の在来品種 Taporuri の 2 回刈り栽培における 1 回目刈取り時期、総窒素施肥量、窒素施肥法、1 回目刈取り時の刈取り高さ、および 1 回目刈取り時の収穫機による刈り株への踏圧が合計乾物収量に及ぼす影響を明らかにし、九州南部を対象とした Taporuri の 2 回刈り乾物多収栽培法を開発しました。

☆ 技術の概要

1. Taporuri の 2 回刈り栽培では、4 月中旬（4 月下旬）に移植し、7 月下旬（8 月上旬）の穂揃期に 1 回目を収穫、10 月下旬（11 月上旬）の黄熟期に 2 回目を収穫することにより、極めて高い乾物収量が得られます（表 1）。
2. 現地における Taporuri の合計乾物収量および推定 TDN 収量は全刈りでそれぞれ 1.9 t/10a および 0.9 t/10a の多収となります。また 1 回目、2 回目のいずれも発酵品質は良好です。
3. Taporuri の 2 回刈り栽培では、多肥で、1 回目に重点的に施肥することにより、極めて高い乾物収量が得られます。
4. 高品質の 2 回目を多く収穫するためには、1 回目刈取り時の刈取り高さを高くする必要があります。
5. 1 回目刈取り時の収穫機による刈り株への踏圧は、2 回目の乾物収量にほとんど影響しません。

☆ 活用面での留意点

1. 1 回目刈取り時には、十分に落水し、収穫機が入られるようにする。
2. Taporuri の 2 回刈り栽培の適地は、生育期間の気温が高い九州南部である。
3. Taporuri の種子は、農業生物資源ジェンバンクから配布された品種である。
4. 詳細は九州沖縄農研・イネ発酵 TMR 研究チーム（電話 0492-52-0670）にお問い合わせください。

（中央農業研究センター

研究管理監 寺島 一男）

表1 鹿児島県鹿屋市の現地における Taporuri の収量

	全刈り 収量 (t/10a)	出穂日 (月/日)	収穫日 (月/日)	推定 TDN 収量 (t/10a)
H18 1 回目	1.03	7/27	7/30	0.50
2 回目	0.87	9/25	10/24	0.42
合計	1.91			0.92
H19 1 回目	0.79	—	8/8	0.36
2 回目	0.99	9/25	11/13	0.50
合計	1.79			0.86

H18 年の施肥は、基肥が前作のイタリアライグラス播種前に鶏糞堆肥で 4t/10a、追肥が 1 回目刈取り後 14 日に化成肥料で 10kgN/10a、H19 年の施肥は、基肥—追肥 1(1 回目最高分げつ期)—追肥 2(1 回目刈取り後 14 日)の順に化成肥料で 10-4-10(kgN/10a)、刈取りは、フレール型収穫機で実施し、その高さは地際から 5-15cm。